

## 主要災害に対するこれからの対応策

夏の主要災害といえば、冷害・干ばつ・風水害である。いずれにしても生育盛期の夏になって、対策としてできることはごく限られることになる。今さら品種を取かえることもできないし、肥料を抜くわけにもいかないから……

## &lt;冷害に対して&gt;

水稻の冷害については、一時的低温対策だろう。すでにご承知のように、穂ばらみ期と出穂開花期は、低温の被害を受けやすい時期である。

一時的低温が来そうなときは、できるだけ、深水をたまくることが有効である。深水の程度は10~15cmは必要である。これより深ければ更に有効。

しかしこの方法は、応急的にそのような深水かんがいができるような高ウネと、用水の準備が必要である。北海道では効果をあげている方法なので、東北地方はもち

ろん中西部日本でも、高冷地水田では有効である。

もう一つの大切なことは、いもち病防除である。これまでの共同防除組織が崩れたところが多いので、早期発見・適期防除の基本が守られにくくなっている。是非とも建直して防ぎたいものである。

## &lt;台風について&gt;

この数年全般的には台風被害が少ない事が続いた。今年も2~3個上陸の予想である。風害を防ぐことはむずかしいが、作物を丈夫に育てておくことが大切。窒素のやりすぎをさげ、病虫害防除を行なうなど平素の管理が大切である。収穫期になった作物は、早目でも収穫することも有効。最近では水稻の刈取機が普及したので、来襲時の進路判断と決断が必要である。また被災後の手当ていかんで、実害の軽減ができるので、台風後の障害診断を正しくし、早く・正しく実施することも忘れてはならない大切なことである。

## 昭和51年度わが農業生産の見通し

	単 位	実数または指数			対前年度増減(△)率(%)			51年度見通し
		48年度	49年度	50年度 (概数)	48年度	49年度	50年度 (概数)	
牛 乳	生乳生産量 万トン	490	488	501	△ 0.9	△ 0.5	2.8	前年度よりやや増加
牛 肉	成牛と殺頭数 万頭	76	109	110	△28.5	43.9	0.7	上期は前年同期よりかなり減少 下期は前年同期並み
豚 肉	と殺頭数 万頭	1,438	1,523	1,400	8.8	5.9	△ 8.1	上期は前年度より若干減少 下期は前年同期よりやや増加
鶏 卵	生産量 万トン	180	179	180	0.3	△ 0.5	0.5	上期は前年同期よりわずかに増加 下期は前年同期並みないし若干減少
ブロイラー	出荷羽数 千トン	428	440	445	10.0	2.6	1.2	上期は前年同期よりかなり増加 下期は前年同期よりやや増加
み かん	収穫量 千トン	3,389	3,383	3,665	△ 5.0	△ 0.2	8.3	前年度並みないしやや減少
りんご	" "	963	850	898	0.4	△11.7	5.6	前年度よりやや減少
ぶどう	" "	271	295	284	0.7	8.9	△ 3.6	前年度よりかなり増加
野 菜	収穫量指数 45年度 100	105	102	103	△ 2.4	△ 2.2	1.2	前年度よりわずかに増加
大 豆	収穫量 千トン	118	133	126	△ 6.6	12.4	△ 5.4	前年度並みないし若干増加
茶	荒茶生産量 "	101	95	105	6.3	△ 5.9	10.7	前年産よりわずかに増加
蕎 麦	収穫量 "	108	102	991	2.9	△ 5.8	△10.5	前年産よりややないしかなり増加
米	収穫量 "	12,149	12,292	13,165	2.1	1.2	7.1	前年産よりかなり減少
麦	" "	419	465	462	△31.2	11.2	0.6	前年産よりやや増加